

報告事項

件名	小中学校等英語教育推進に向けた取組について
提出理由	令和3年度「小中学校等英語教育推進に向けた取組」について、別紙のとおり報告します。
概要	<ol style="list-style-type: none">1 現状2 小中学校等英語教育推進事業3 学習指導要領の変更後の学校の課題4 今後の方向性5 今後の取組について

(義務教育指導課)

【別紙】



令和3年度小中学校等 英語教育推進に向けた取組について

令和3年11月
義務教育指導課

1 現状(文部科学省令和元年度英語教育実施状況調査より)

① 生徒の英語力

<英検3級以上相当の英語力を有する中学3年生の割合>

	取得者の割合 (a)	同等の英語力を有すると思 われる者(b)	取得者+同等の英語力を有す ると思われる生徒(a+b)	全国平均
R1年度	29.6%	16.2%	45.8%	44.0%
H30年度	28.3%	17.0%	45.3%	42.6%
H29年度	24.4%	17.5%	41.9%	40.7%
H28年度	20.5%	17.8%	38.3%	36.1%
H27年度	20.2%	19.6%	39.8%	36.6%

※ 「同等の英語力を有すると思われる者」とは、中学校3年生を指導する英語科教員が生徒の授業中の言語活動の様子等から「受験をすれば取得できるであろう」と判断した者のことである。

② 学習指導要領の改訂

学 年	これまで(旧学習指導要領)
小学校 中学年	(扱いなし)
小学校 高学年	外国語活動 ・ 評価は文章記述 ・ 「聞くこと」「話すこと」
中学校	外国語(英語) 【指導事項】 ・聞くこと ・話すこと 4技能 ・読むこと ・書くこと 【評価の観点項目】 ○コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ○外国語表現の能力 ○外国語理解の能力 ○言語や文化についての知識・理解 ・四つの項目の評価(ABC)を5段階の評定に総括



学 年	現在(新学習指導要領)
小学校 中学年	外国語活動 【指導事項】2技能3領域 ・「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと「発表」」 ・評価は文章記述
小学校 高学年	外国語(教科) 【指導事項】4技能5領域 ・「読むこと」「書くこと」の増加 【評価の観点項目】 ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度 ・三つの項目の評価(ABC)を3段階の評定に総括
中学校	外国語(英語) 【指導事項】4技能5領域 ・「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「読むこと」「書くこと」 【評価の観点項目】 ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度 ・三つの項目の評価(ABC)を5段階の評定に総括

新学習指導要領の正しい理解の上、
新しい指導方法と評価方法を学ぶ必要がある

従前の取組

- 中核教員養成講座（平成27～31年度）
国の英語教育推進リーダー中央研修受講者7名を講師とし、市町村から推薦を受けた70名の小学校教員を対象に研修を実施
- 埼玉大学における中学校教諭免許状（外国語〔英語〕）認定講習
（平成28～30年度）
- 新学習指導要領の周知（平成29年度）
教育課程地区説明・協議会にて実施
- 小学校教員英語指導力養成講座（平成30・31年度）
小学校高学年を担当している教員を対象に実施
- 英語教材バンクの構築（平成30年度から）
県内の優れた指導教材や指導法などを県が一元的に集めホームページで発信
- 小学校英語専科加配の配置（平成30年度から）

2 小中学校等英語教育推進事業

目的

- ①新学習指導要領の円滑な実施に向けて、**教員の英語指導力を養成**
- ②子供たちの外国語におけるコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための**指導力向上を図る**

小中学校等英語指導力養成講座

小学校

<課題>

令和2年度から新学習指導要領実施

- ・英語教科化(5年生、6年生) ・外国語活動の早期化(3年生、4年生)
- ⇒教員の指導方法の理解と指導実践が不十分であり、支援が必要

<取組内容>

指導方法及び評価方法研修の実施

- 対象:120名(R3年~R7年の5年間で全校各1名)
- 期間:3日間
- 内容:動画配信を併用した大学教授等による集中講座(授業方法、評価の事例、ICT活用能力の向上)

中学校

<課題>

令和3年度から新学習指導要領実施

- ・評価の観点項目が四つから三つに変更
- ・学習到達目標(CAN-DOリスト)の作成と授業内での活用
- ⇒教員の新しい観点での評価実践が不十分であり支援が必要

<取組内容>

指導方法及び評価方法研修の実施

- 対象:80名(R3年~R7年の5年間で英語教員の約半数)
- 期間:3日間
- 内容:動画配信を併用した大学教授等による集中講座(授業方法、評価の事例、ICT活用能力の向上)

小中学校等英語指導力養成講座について

- テーマ 「新学習指導要領における適切な指導と評価」

- 講座内容
 - ・ 指導と評価の一体化について
 - ・ ICTを活用した指導
 - ・ 評価の実践
 - ・ 言語活動の充実化
 - ・ 小中連携の進め方
 - ・ 言語活動を促進する指導の工夫
 - ➡ 評価項目に関する指導と評価の具体についての理論と実践
 - ➡ 講義後、グループ毎に協議、協議内容を全体で共有
 - ➡ 実際の授業動画を視聴、グループ内で協議。講師からの指導

3 学習指導要領の変更後の学校の課題

- 教員間の英語指導の経験及び習熟度の差
- 児童・生徒の英語能力の差の解消
- 児童・生徒の英語に対する苦手意識の解消
特に「読むこと」「書くこと」に対しての克服
- 小中学校間の指導の継続性

4 今後の方向性

- 教員の英語力・指導力の向上
- 授業や学習に有用なICTの活用方法
- 養成講座受講対象外の学校への対応

小学校教員の中には自分自身の英語力と英語指導の経験不足に課題を感じている者が多い。

中学校教員が新しい評価観を理解するにはまだ時間を要する状況。

5 今後の取組について

外国語の指導方法を学びながら英語力を強化できる研修の提供
英語担当教員同士の情報交換の場の提供が必要

① 小中学校等教員の英語指導力養成の取組

- 小中学校等英語指導力養成講座の継続実施。
- 新しい指導観・評価観に係る研修を継続する。
- 講座においてICT活用事例の情報共有にも取り組む。
- 英語教育改善プラン推進事業（国庫事業）を活用。
- 研究指定校において生徒に対する指導力向上の研究を推進する。



② 小学校英語専科加配教員研修（仮）の実施

- 小学校英語専科加配教員を対象としたオンライン研修の実施。
- Web会議システムで小グループを編成、共通の課題を事前に提示、その内容について協議する。また情報交換の場とする。



③ 英語力強化の取組

- 先導的なオンライン研修実証研究事業（国庫事業）を活用。
- 指導に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語力と指導力向上を目指す。



④ 学校訪問を通じた指導の実際の確認

- 学校訪問の際に指導状況を確認し、指導・助言する。